

## 令和2年度地球温暖化防止プロジェクト推進会議概要

1 開催期間 令和3年2月17日～3月5日

2 開催方法 書面開催

### 3 議題への主な意見

#### (1) 岡山県内の温室効果ガス排出量の状況等

- ・ 構成割合は小さいものの、家庭部門の削減率が目立っていることは特に喜ばしい。構成割合が大きい産業部門等のCO<sub>2</sub>削減も、民意の上に立つものであり、まず民意の結集としての社会の機運がCO<sub>2</sub>削減に大きく向かわねば目標は達成しえない。
- ・ 政府がカーボンニュートラルを唱えだした今こそ、その機運を盛り上げるべきであり、当会議にもその一端を担う役割と責務がある。
- ・ 2018年度に基準年度比で14.2%減であれば、2030年度の削減目標が17.7%では低すぎる。目標を半減にしてほしい。
- ・ 温室効果ガス排出量が5年間で14.2%削減できていることは産業部門、民生部門ともに削減に向けて努力してきたことの成果として評価できる。2020年～2021年にかけてニューノーマルが定着しつつあり、ニューノーマルの中で有効な一層の削減方法を提案すべき。

#### (2) 地球温暖化対策に関する県の取組

- ・ 政府の2050年カーボンニュートラル宣言等を踏まえ、地域における脱炭素化の取組をより実効性の高いものとするためには、県による各般の取組の充実と、県における環境部門と他の部局との連携強化が重要であると考えており、今後、こうしたことが推進されることを期待している。

#### (3) 地球温暖化対策に関する団体・事業者の取組

- ・ SDGsへの注目や環境重視の機運が高まるとともに、積極的な温暖化対策が産業構造や経済社会の変革をもたらし、大きな成長につながるという発想の転換が求められる中、国の地球温暖化対策の推進に関する制度検討会において、地域地球温暖化防止活動推進センターの事務に、事業者向けの地球温暖化対策に関する啓発・広報活動を地球温暖化対策推進法に明確に規定すべきとの方向性が示された。県地球温暖化防止活動推進センターとしても、こうした動向を見据えながら、他の団体・事業者の皆様と更なる連携を図りたいと考えている。
- ・ DXに向けた社会全体の取り組みにより、製造業・サービス業の分野は急ピッチで変化が起きる。その変化の中で、製造、民生を問わず、CO<sub>2</sub>の削減を意識しながら事業の転換を考えていくことが必要。岡山はSDGsの先進地であり、企業・団体・地域が連携しながら削減に向かえる素地はある。